



13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動で将来どうなっちゃうんだろう？

SDGsって私とどう関係があるの？という高校生・学生のみなさん、集まれ！

気候変動の影響と適応策×SDGsについて知り、考え、話してみませんか。

未来を変える、新しいアクションのアイデアが生まれるかもしれません。

気候変動×SDGs

参加無料

日時 2022年7月23日 土 13:00～17:10

(第1部セミナー 13:00～ 第2部ワークショップ 15:10～)

会場 オンライン WebEx 100名 (高校、大学、短期大学、専門学校等
の生徒・学生)

青森会場 青森県観光物産館アスパム 5F会議室

先着30名(青森県内の高校生限定)

○事前申込制です。

○オンラインと青森会場との2か所同時開催です。

○本イベントは第1部セミナーと第2部ワークショップの2部構成です。

○後半のワークは、オンラインと青森会場で終了時間が異なります。

話題提供

「気候変動の影響と適応」

環境省東北地方環境事務所

主催 環境省東北地方環境事務所・気候変動適応東北広域協議会

共催 青森県気候変動適応センター

協力 青森大学SDGs研究センター

参加方法 QRコードまたはWebページ内の申込みフォームよりご登録ください。

<https://forms.gle/4FDGawkJEmUC6yp839>

基調講演

「気候変動とSDGsについて考えてみる」

青森大学社会学部教授・青森大学SDGs研究センター長

藤 公晴 氏



締切

7月16日

取組事例紹介

「岩手大学発！SDGs達成に向けて」

岩手大学環境マネジメント学生委員会



活動紹介

「生活季節観察調査報告」

弘前大学環境サークルわどわ



※入場時の検温、手指消毒、咳エチケットなどに御協力をお願いします。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、オンライン開催のみになる
場合がございます。あらかじめご了承ください。

会場ワークショップ オンライン座談会

気候変動×SDGs

プログラム

第1部

13:00	開会挨拶	主催者 環境省東北地方環境事務所
13:05	話題提供	「気候変動の影響と適応」 環境省東北地方環境事務所
13:25	基調講演	「気候変動とSDGsについて考えてみる」 青森大学 SDGs 研究センター センター長 藤 公晴 氏
14:05	取組事例紹介	「岩手大学発！SDGs 達成に向けて」 岩手大学 環境マネジメント学生委員会
14:30	活動紹介	「生活季節観察調査報告」 弘前大学環境サークル「わどわ」
14:50	質疑応答	
15:00	休憩	

第2部

気候変動により引き起こされる様々な影響とその適応策について、高校生と学生のみなさんでアイデアを出し合い、次のアクションを考えましょう。
あなたの考えを聞かせてください。

(青森会場)

15:10 ワークショップ「気候変動 ×SDGs」
16:55 振り返りタイム
17:10 閉会

(オンライン)

15:10 オンライン座談会「気候変動 ×SDGs」
16:15 振り返りタイム
16:25 閉会

講師紹介

「気候変動とSDGsについて考えてみる」

青森大学 SDGs 研究センターセンター長 藤 公晴 氏



米国留学後、1993～98年まで北信州で見習い百姓や山岳パトロール、翻訳などに従事した後、青森大学大学院環境科学研究科に進学した。2000～2004年に（社）日本環境教育フォーラムで海外調査・途上国支援事業・政策提言・調査研究事業を担当。その後、ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科に2005年に進学し、2014年に博士学位取得。社会貢献活動では、現在、平内町ハクチョウのまち再生事業実行委員長、青森環境審議会会長、Hult Prize JAPAN Impact Council、東北環境パートナーシップオフィス事業検討委員などに従事している。

「岩手大学発！SDGs達成に向けて」

岩手大学 環境マネジメント学生委員会



2008年10月に学生有志14名により設立され、現在は毎年50名以上の学生委員が在籍する。学生が主体的に参加できる環境マネジメントシステムの構築と運用を目的とし、7つ（環境教育、企画、グリーン・キャンパス、広報・web、省エネ・省資源、廃棄物、ハーバリウム）のチームで構成される。ペットボトルキャップ・古本回収、緑のカーテン作り、環境教育等の様々な活動を学内外で展開している。

「生活季節観察調査報告」

弘前大学環境サークル「わどわ」



2003年、「リユース市」の開催（卒業で不要な家具・家電を新入生・在校生へ提供）をきっかけに結成された弘前大学公認の環境サークル。近年は、「弘前だんぶり池」での里山再生活動をはじめ、地域の様々な環境活動に参画している。また、本事業の生物季節・生活季節モニタリングに協力している。わどわの名称は「わんどのわ」の略で、津軽弁で「私たちの輪」を意味する。